

言うは易く行は難し

根室新聞社 編集局長

桐澤 国男

まちなかの一角（北海道根室振興局保健環境部保健行政室＝根室保健所）に「官立根室病院跡」という標柱が立っている。根室で最初の病院がこの地から始まったことを記している。

《明治2年（1869年）に旧松前藩官舎を利用して医員仮事務所とし、明治5年に官立根室病院となり同8年にこの場所に新築。択捉島から釧路まで9カ所の病院をまとめる近代的な病院だった》ことを伝えている。

開拓使根室出張所が設置された明治2年10月、開拓判官に任ぜられた松本十郎は、役人や移民など約130人を率いて根室に赴く。大学東校（東京大学医学部前身の一つ）より林洞斎医師らを帯同したのが、そもそもの始まり。多くの医員によって根室の医療が発展してきた歴史をたどれば、根室における近代医療の夜明け、と表現するののも外れではあるまい。

松本判官が直ちに手掛けたのは牢（監獄）や病院、教育所などの整備。医療は開拓行政において欠くことのできないものであった。歴史に習うまでもなく、「医」は国づくり、まちづくりの根幹である。医報誌上では釈迦に説法であるが、憲法が保障する健康で文化的な最低限度の生活を営むために、「医」は紛れもなく極めて重要な役割を担っている。

翻って地域の現状はどうか。身近な根室地方で見ると、人口10万人当たりの医師数は102.7人。全道（238.3人）、全国（240.1人）の半分に満たない。日高（99.3人）、宗谷（86.7人）は100人をも割り込んでいる＝いずれも厚生労働省 平成28年調査による＝のが実態である。

地域にとっての医師確保は、そこに人々の暮らしがある限り、永遠に向き合っていかなければならない最優先課題である。特に自治体病院は、とって代わる医療機関がなければ、住民ニーズに答えていかなければならない宿命にある。

自治体の財政力に応じた、身の丈に合った病院経営が求められる時代ではあるが、住民が求める医療体制との間には乖離がある。そこを埋めて病院・医師と住民が共に地域の未来を描ける医療体制とはいかにあるべきか、真剣に議論し、構築する必要がある。言うは易く行は難し、は承知の上。

最近「地域医療」というキーワードで気になるニュースがあった。北海道医師養成確保修学資金貸付

制度が課す9年の義務年限が、医師としてのスキルアップ、キャリア形成に障害になるという捉え方だ。そうした懸念があることを否定するつもりはないが、果たしてそうであろうか。地域医療の厳しい部分ばかりがクローズアップされて、まるで「地域医療の呪縛」にでもかかっているのではないかと思ってしまうのである。

道が示している「地域枠医師の配置の考え方」には、義務年限の運用に当たってキャリア形成に対する一定の配慮がうかがえる。制度設計には北海道医師会の意見も反映されているのではないかと推察するが、実際はどうなのか。

北海道が今春公表した地域医療に対する勤務医アンケートの結果には、現在都市部（札幌市、旭川市の初期臨床研修医を有する市立および公的病院）に勤務する医師を含めて、地域での勤務経験の良かった点を挙げる医師は決して少なくないことが分かる。

具体的な集計結果は割愛するが、幅広い症例経験、患者や住民から必要とされる充実感、診療に対する裁量（任される部分が多い）などを良かった点に挙げている。給与の良さを挙げる人も1割程度いる。それらを含めて地域に勤務する魅力を発信し、「地域に勤務する」ことに対する理解を醸成していくことも、医師会ならびに「医報」に期待するところである。

他方、前出の勤務医アンケートは、地域に勤務する条件として「家族の同意」や「単身赴任への配慮」「交通の便が良い」「交代できる医師がいる」「医師の勤務環境改善と、地域の理解」などが挙がる。地域には、医師が希望する働きやすさ、暮らしやすさ、疲弊防止対策にさらなる取り組みが求められる。

蝦夷地と呼ばれていた北の大地が「北海道」と命名されて150年。道内では記念事業や主旨に賛同する企業団体などによるパートナー事業が盛んに展開されている。

北海道最古の病院は、市立函館病院とされる。万延元（1860）年に設立された「箱館医学所」にその源を発していることが同病院沿革にある。北海道の150年は、進取の気概に満ちた先達が北海道に近代医療の礎を築き、北海道の発展を支えてきた150年でもあろう。北海道の医療を支える北海道医師会が描く北海道の未来ノートはどんなだろうか。

「その先の、道へ。北海道」は「北海道の医療」にも通じる。誌齢1200号に達した「北海道医報」が、道民の命と健康を守る北海道の医療人を触発し続ける知の砦として発展されることを祈念したい。

プロフィール

1979年根室新聞社入社。報道部記者。2015年編集局長。根室市公民館運営審議会委員、根室市図書館協議会会長など歴任。現在、根室市民大学運営委員、根室市総合文化会館事業協会事務局長、根室市史編纂委員会委員。根室高等学校卒。根室市出身。57歳。